

# 平成 29 年度 吹田市肺がん検診・結核検診実施状況について

## 1 肺がん検診実施状況

### (1) 年次別肺がん検診受診者数及び受診率

#### 【受診率の算出方法】

全国、大阪府と比較をするため、国が示す方法に基づき算出。算出対象は 40～69 歳。

- ・対象者数＝国勢調査において報告された人数－（就業者＋農林水産従事者数）

※本資料は平成 22 年国勢調査をもとに対象者を算出。

- ・受診率＝当該年度の受診者数÷対象者数

#### 【初回受診者について】

前年度の受診がある場合は非初回、受診がない場合は初回に分類される。

表 1-1 H26 年度～H29 年度（4～10 月）肺がん検診実績（40～69 歳）

	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度(4～10月)		
	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計
対象者数	53,614			53,614			53,614			53,614		
受診者数	10,293	1,123	11,416	10,784	1,095	11,879	11,138	1,670	12,808	5,969	893	6,862
受診率	19.2%	2.1%	21.3%	20.1%	2.0%	22.2%	20.8%	3.1%	23.9%			
初回受診者数	4,029	590	4,619	4,657	581	5,238	5,072	1,178	6,250	2,934	563	3,497
初回の割合	39.1%	52.5%	40.5%	43.2%	53.1%	44.1%	45.5%	70.5%	48.8%	49.2%	63.0%	51.0%

参考：表 1-2 H26 年度～H29 年度（4～10 月）肺がん検診実績（40 歳以上）

	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度(4～10月)		
	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計
対象者数	96,426			96,426			96,426			96,426		
受診者数	15,599	1,518	17,117	16,524	1,477	18,001	17,504	1,986	19,490	9,695	1,160	10,855
受診率	16.2%	1.6%	17.8%	17.1%	1.5%	18.7%	18.2%	2.1%	20.2%			
初回受診者数	5,956	711	6,667	6,938	679	7,617	7,785	1,256	9,041	4,607	635	5,242
初回の割合	38.2%	46.8%	38.9%	42.0%	46.0%	42.3%	44.5%	63.2%	46.4%	47.5%	54.7%	48.3%

参考：H26 年度受診率比較（40～69 歳）

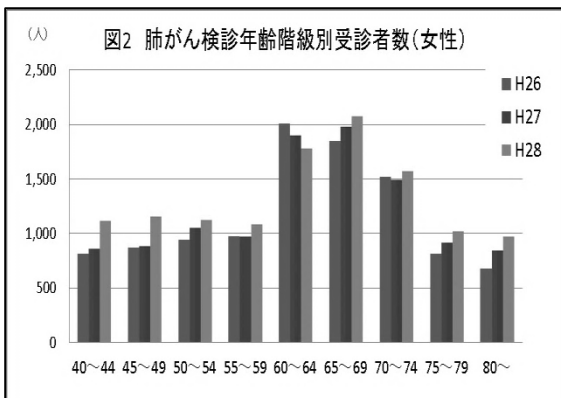
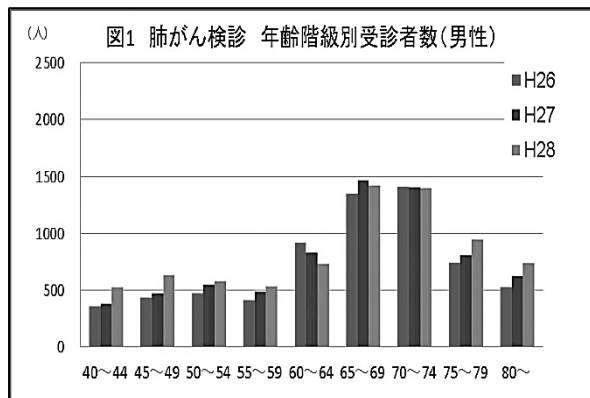
	全国	大阪府	吹田市
受診率	16.1%	11.9%	21.3%

#### <考察>

- ・平成 28 年度の受診率は個別検診・集団検診を合わせると 23.9%であった。経年でみると受診率は年々上昇している。
- ・平成 26 年度の受診率は全国、大阪府と比較すると高い値であった。

- ・平成 28 年度の受診者の増加率は、個別検診と比べると集団検診のほうが高い。
- ・平成 28 年度の集団検診において、40～69 歳の年齢を対象としたとき、受診者に占める初回受診者の割合が 71%であった。これは例年の 50%台と比較すると非常に高い値になっている。
- ・受診者増加の背景として、平成 25 年度から 50 歳、60 歳の年齢のみに送付していた胃がん・肺がん・大腸がん検診の案内はがきを、平成 28 年度から 40～60 歳の全年齢に変更したことが関係していると考えられる。

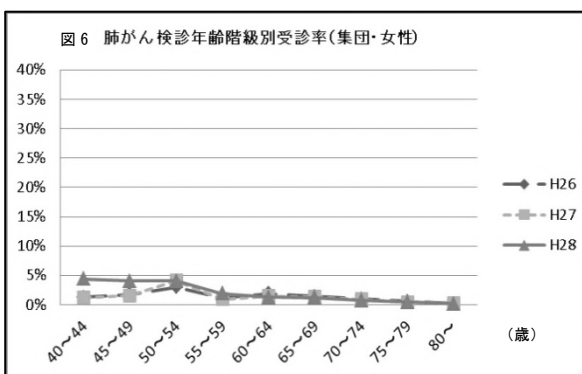
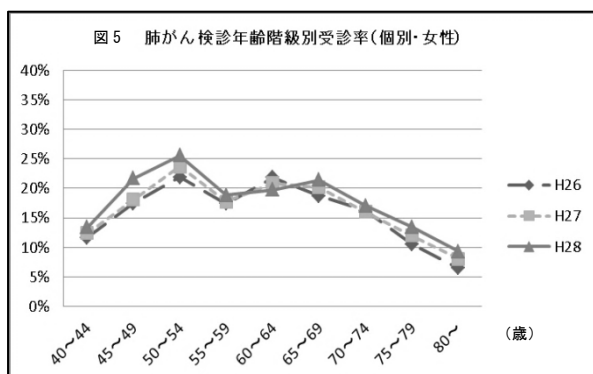
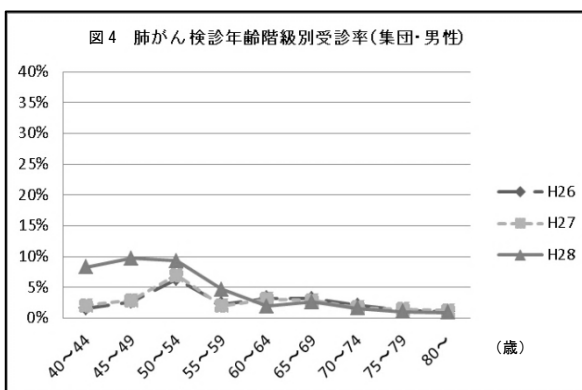
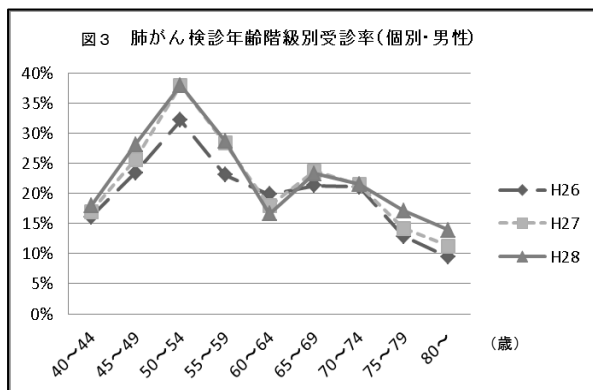
(2) 肺がん検診男女別、年齢階級別受診者数 (対象者数は p. 1 の算出方法に基づく)



<考察>

- ・受診者数はすべての年代において、女性が男性と比べると多い。
- ・受診者は男性では 60 歳代後半～70 歳代前半、女性では 60 歳代が最も多い。
- ・平成 28 年度は、男性では 60 歳代、女性では 60～64 歳を除いたすべての年代で、過去の受診者数を上回る結果となった。

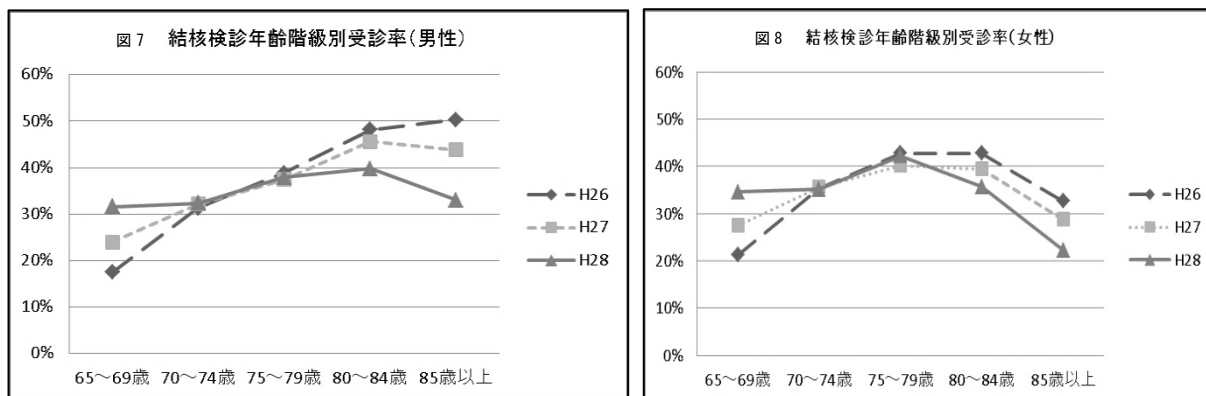
(3) 肺がん検診男女別、個別・集団検診別年齢階級別受診率 (受診率は p. 1 の算出方法に基づく)



<考察>

- ・受診率を算出するにあたって、対象者は就業者数を除いた数(農林水産業従事者は含む)となるため、対象者が少なくなる40歳代・50歳代では受診率が高く、対象者が多くなる60歳代以上ではやや受診率が低くなっていた。
- ・平成28年度の受診者数の増加は集団検診の男性で特に顕著にみられた。

(4) 結核検診男女別年齢階級別受診率(対象者数はp.1の算出方法に基づく)



<考察>

- ・平成28年度は、65歳以上のすべての年代において、結核検診の受診率が肺がん検診の受診率を上回っていた。

表2 肺がん検診および結核検診 年齢別受診状況

検診種別	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度(4~10月)		
	肺がん (個別)	肺がん (集団)	結核	肺がん (個別)	肺がん (集団)	結核	肺がん (個別)	肺がん (集団)	結核	肺がん (個別)	肺がん (集団)	結核
対象者数(人)	53,614			53,614			53,614			53,614		
受診者数(人)	15,599	1,518	19,468	16,524	1,477	19,650	17,504	1,986	19,955	9,695	1,160	10,533
うち40~64歳 受診者数	7,397	818	/	7,618	809	/	7,881	1,414	/	4,308	750	/
40~64歳 受診割合	47.4%	53.9%	/	46.1%	54.8%	/	45.0%	71.2%	/	44.4%	64.7%	/
うち65歳以上 受診者数	8,202	700	19,468	8,906	668	19,650	9,623	572	19,955	5,387	410	10,533
65歳以上 受診割合	52.6%	46.1%	100.0%	53.9%	45.2%	100.0%	55.0%	28.8%	100.0%	55.6%	35.3%	100.0%

<考察>

- ・受診者に占める高齢者の割合は、経年でみると、集団検診ではやや低下傾向であるが、個別検診ではやや増加傾向であった。

## (5) 要精検者について

表3 年次別肺がん検診要精検者内訳

	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度(4~10月)			許容値	
	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計		
要精検者数	466	49	515	583	37	620	750	77	827	467	36	503		
要精検率	3.0%	3.2%	3.0%	3.5%	2.5%	3.4%	4.3%	3.9%	4.2%	4.8%	3.1%	4.6%	3.0%以下	
精検受診者数	405	42	447	539	24	563	695	75	770	370	33	403		
精検受診率	86.9%	85.7%	86.8%	92.5%	64.9%	90.8%	92.7%	97.4%	93.1%	79.2%	91.7%	80.1%	70.0%以上	
精検結果内訳	異常なし	157	13	170	212	6	218	284	35	319	151	10	161	
	がん	8	2	10	6	2	8	19	1	20	7	2	9	
	がん疑い	4	0	4	6	0	6	7	0	7	4	0	4	
	GGO	10	1	11	7	0	7	15	0	15	3	0	3	
	転移性肺腫瘍	1	0	1	0	0	0	2	0	2	2	0	2	
	その他	225	26	251	307	16	323	368	39	407	203	21	224	
未受診/未把握	61	7	68	44	13	57	54	2	56	97	3	100		
がん発見率	0.05%	0.13%	0.06%	0.04%	0.14%	0.04%	0.11%	0.05%	0.10%	0.07%	0.17%	0.08%	0.03%以上	
陽性反応的中度	1.72%	4.08%	1.94%	1.03%	5.41%	1.29%	2.53%	1.30%	2.42%	1.50%	5.56%	1.79%	1.3%以上	

## &lt;考察&gt;

- ・平成28年度は精検受診率、がん発見率、陽性反応的中度は許容値を満たしている。
- ・平成27年度から要精検率が許容値を超えており、特に平成28年度、平成29年度(4~10月)の個別検診では要精検率が4%を超える結果となっている。

要精検率は対象の特性の変化に影響を受けやすい値であるため、要因として、平成28年度から送付対象を大幅に拡大した案内はがきの影響により、初回の受診者が多かったことなどが関係していると考えられる。

- ・未受診・未把握に対しては未受診勧奨を行い、把握に努めている。また本人より精検受診有と申告があったものについては医療機関照会を実施しているが、返送されなかった場合、未把握として計上することとなる。

**参考**: H26年度参考値(全年齢)

	全国	大阪府	吹田市
要精検率	2.6%	2.1%	3.0%
精検受診率	79.7%	87.0%	86.8%
がん発見率	0.06%	0.09%	0.06%
陽性反応的中度	2.5%	4.0%	1.94%

## 2、肺がん検診読影状況について

(注) 表の見方

判定の意味

- b : 異常所見を認めない
- c : 異常所見を認めるが、精査を必要としない
- d : 異常所見を認めるが、肺がん以外の疾患が考えられる。
- e : 肺がんの疑い

一次読影で、d・e判定：要精検。 b・c判定：二次読影へ。

二次読影で、b・c判定：最終判定をb・c判定として一次医療機関に結果返却。

d・e判定は読影委員会（三次読影）へ。

※読影委員会は、済生会吹田病院・済生会千里病院・吹田市民病院の3病院以外で撮影されたケースのうち、二次読影でd・e判定のケースのみ読影する。

H27 年度個別検診読影内訳

〈一次読影〉	〈二次読影〉	※ 〈読影委員会〉
b 13,536	b	B 70
c 2,651	c	C 80
d 119	d	D 7
e 218	e	E 191
《最終X線判定》		
B	12,613	76.3%
C	3,332	20.2%
D	122	0.7% (21.1%)
E	457	2.8% (78.9%)

H28 年度個別検診読影内訳

〈一次読影〉	〈二次読影〉	※ 〈読影委員会〉
b 13,909	b	B 118
c 3,169	c	C 93
d 158	d	D 7
e 268	e	E 274
《最終X線判定》		
B	13,137	75.1%
C	3,624	20.7%
D	180	1.0% (24.2%)
E	563	3.2% (75.8%)

H29 年度（4～10月）個別検診読影内訳

〈一次読影〉	〈二次読影〉	※ 〈読影委員会〉
b 7,673	b	B 60
c 1,840	c	C 59
d 57	d	D 11
e 125	e	E 191
《最終X線判定》		
B	7,238	74.7%
C	2,030	20.9%
D	83	0.9% (19.4%)
E	344	3.5% (80.6%)

表4 肺がん個別検診 判定別精密検査結果

	平成27年度						平成28年度						平成29年度（4～10月）						
	X線最終判定		読影委員会(再掲)		喀痰		X線最終判定		読影委員会(再掲)		喀痰		X線最終判定		読影委員会(再掲)		喀痰		
	D	E	D	E	C	D	D	E	D	E	C	D	D	E	D	E	C	D	
要精検者数	122	456	7	191	4	1	180	563	7	274	5	2	83	344	11	191	0	2	
要精検率	0.74%	2.76%	0.04%	1.16%	0.02%	0.01%	1.03%	3.22%	0.04%	1.57%	0.03%	0.01%	0.86%	3.55%	0.11%	1.97%		0.02%	
精検受診者数	100	434	3	191	3	1	165	527	6	261	3	1	68	282	9	161	0	1	
精検受診率	82.0%	95.2%	42.9%	100.0%	75.0%	100.0%	91.7%	93.6%	85.7%	95.3%	60.0%	0.0%	81.9%	82.0%	81.8%	84.3%		50.0%	
精検結果内訳	異常なし	24	185	0	81	2	1	48	234	0	133	2	0	19	121	0	69	0	0
	がん	0	6	0	3	0	0	1	18	0	5	0	0	1	6	0	1	0	0
	がん疑い	0	6	0	5	0	0	0	7	0	1	0	0	4	0	3	0	0	0
	GGO	0	7	0	1	0	0	1	13	0	7	1	0	0	3	0	2	0	0
	転移性肺腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
	その他	76	230	3	101	1	0	115	252	6	115	0	1	48	146	9	86	0	1
未受診/未把握	22	22	0	0	1	0	15	36	1	13	2	1	15	62	2	30	0	1	
陽性反応的中度		1.32%		1.57%				3.20%		1.8%				1.74%		0.52%			

(参考) 喀痰細胞診の指導区分

- A: 材料不適、再検査
  - B: 現在異常を認めない、次回定期検査
  - C: 再塗抹または6か月以内の再検査
  - D: 直ちに精密検査
  - E: 直ちに精密検査
- ※D、Eの違いは細胞所見の違いによる。

## &lt;考察&gt;

- ・一次読影で b、c 判定であった者のうち、2～3%が二次読影を実施することで D、E 判定に転じている。平成 28 年度では、そのうち 5 名のがんが見つかり、がんの見落としを防ぐことができているといえる。
- ・読影委員会の実施により、d、e 判定であった者が、毎年 100 名程度、最終 X 線判定が B、C 判定となっており、精密検査による身体的・精神的及び経済的負担を被る人数を最小限に抑えることに寄与しているといえる。
- ・府・国への報告は E 判定からのがん発見者のみであるが、D 判定からのがん及びがん疑いの発見が平成 28 年度では 2 名（1 名進行がん、1 名 GG0）、平成 29 年度では 1 名（早期がん）あった。※肺がんであったケースについてはともに一次判定が D 判定。精密検査を実施し、肺がん発見に至ったケースであった。
- ・平成 28 年度において、E 判定からのがんの発見は 18 名であった。（うち 5 名は読影委員会より）

### 3 肺がんであったケースの詳細

表 5 平成 28 年度 肺がん個別検診 肺がん及びがん疑いであった者  
個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表 6 平成 29 年度（4～10 月） 肺がん個別検診 肺がん及びがん疑いであった者  
個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表 7 平成 28 年度肺がん個別検診 受診歴別臨床病期分類

	IA	IB	IIA	IIB	IIIA	IIIB	IV	不明
初回	3	1	0	1	1	0	4	
非初回	3	2	0	0	1	0	2	1

## &lt;考察&gt;

平成 28 年度は早期がん（I 期）の発見が 9 名（うち初回 4 名、非初回 5 名）であった。ステージ IV で発見されたがんは 6 名（初回 4 名、非初回 2 名）であった。

## 4 結核検診実施状況

表 8 年次別 結核検診受診状況

		平成26年度	平成27年度	平成28年	平成29年度 (4月～10月)
対象者数		57,540			
受診者数		19493	19651	19956	10533
受診率		34%	34%	35%	
要 精 検 者 数	結核疑い	62	58	65	23
	肺腫瘍性病変	314	407	413	243
	合計	376	465	478	266
要精検者率		1.9%	2.4%	2.4%	2.5%
精検受診者数		318	402	400	170
精検受診率		84.6%	86.5%	83.7%	63.9%
精 検 結 果 内 訳	異常なし	123	153	145	69
	活動性結核	2	2	0	0
	がん	10	5	15	5
	転移性肺腫瘍	2	6	2	1
	がん疑い	1	4	1	0
	その他	179	232	237	96
未受診/未把握		59	63	78	96
がん発見率		0.05%	0.03%	0.08%	0.05%
陽性反応的中度		2.66%	1.08%	3.14%	1.88%

### <考察>

結核は平成 26 年度に 2 名、平成 27 年度に 2 名発見された。平成 28 年度、平成 29 年度（4～10 月）は結核の発見はない。

表 9 平成 28 年度 結核検診 肺がん及び肺がん疑いであった者

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表 10 平成 29 年度（4～10 月） 結核検診 肺がん及び肺がん疑いであった者

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表 11 平成 28 年度 結核検診 受診歴別 臨床病期分類

	I A	I B	II A	II B	III A	III B	IV
初回	2	1	0	1	0	0	1
非初回	2	2	0	1	1	1	1

### <考察>

- ・平成 28 年度では、初回から 5 名、非初回から 8 名がんが見つかった。